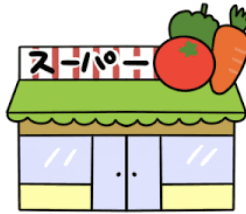


ゆうゆうの日常～4月だより～

令和7年5月12日

おはなみ
04/5(土)お花見



はなみべんとうづく
お花見弁当作り

今回は、スーパーへ行き材料を買うところからはじめました。
同じ野菜でも値段や産地の違うものがあり、悩み・考えながら買い出しをしています。

菜の花の肉巻きやロールパン、お稲荷さんなど春らしいお弁当になりました。
お稲荷さんに酢飯を入れるのがむずかしく、いれすぎたり、あげが破れたりと苦戦。大きさは小・中・大・特と不揃いではありましたが、思い出になるお弁当になりました。



おはなみ
お花見

桜の下にレジャーシートを広げ、作ったお花見弁当をみんなで食べました。
子どもたちの間では、「たまご焼きどう？もうちょっと甘い方が良かった？」「うん、おいしいよ。」と家庭の中でも出そうな会話をしていました。



ゆうゆうの療育～4月だより～

○療育とは

発達特性に関する専門的知識が必要な子育てのことです。発達障害にかんして専門的知識が必要になるものの、子育てに変わりありません。

簡単に言うと・・・ていねいで細かな子育て。

○ゆうゆうの療育～十人十色療育～

・ゆうゆうの療育は、人としての基本を学び、身につけることを目的としています。

人としての基本例・身だしなみ、あいさつ(ありがとう・ごめんなさいを含む)、自分や他者を大切にできる・思いやりの心など。

どれも子どもたちが、社会の中で・人の輪の中で生きてゆくためには必要なこと。

1年や2年で出来るようにはならないので、

人としての基本を学ぶには、努力と根気・時間がいらいます。

・ときどき、ゆうゆうの療育は「きびしい」と言われることがあります。

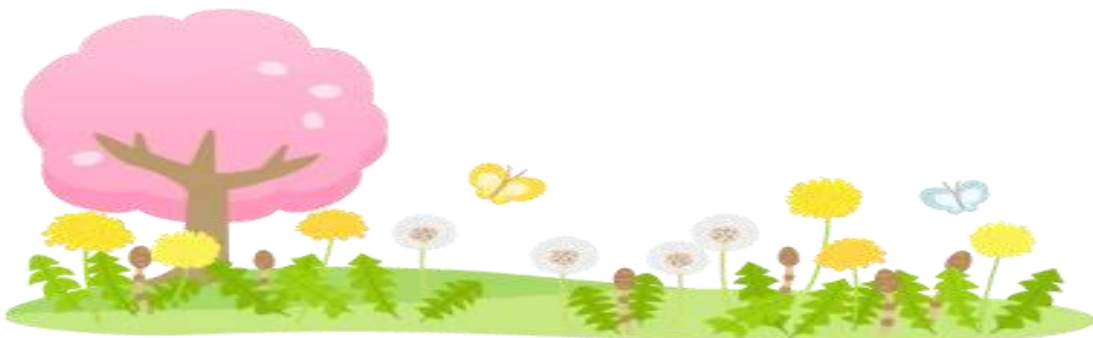
「まだ、子どもなのに・・・」「障がいがあるのに・・・」と。

けれど、子ども達が飛び込む社会は、

“障がいがあるからといって優しくしてくれ、本人にとって都合の良い環境にはなかなか出会うことができないでしょう。”

障がいがあっても自分らしく＝わがままを通すという意味ではない。✕

・社会で、人の輪の中で道端に咲く花をキレイだなと思うような小さな幸せを感じ生きてほしいと思います。



- ちいさなしあわせ かんじる
・ 小さな幸 せを感じるのに
しょうがい うむ かんけい
障 害の有無は関 係なく、ましてや大人か子どもかという関 係もありません。
- ひと ぜんあく
・ 人としての善 悪も
しょうがい うむ おとな みせいねん かんけい
障 害の有無や大人か未 成年かという関 係もありません。

りょういく しょう じ しょう しゃ せいちょう
◎ ゆうゆうの療 育は、障 がい児から障 がい者としての成 長ではなく、
ひと こころ せいちょう うながして
人として心 の成 長を促してゆきます。



ちがって ○ みんな違ってみんないい

- ひと じゅうにんといろ
・ 人とは、十 人十 色です。
- おなじ おなじ そだつ ひとり さいてき りょういく
・ 同じプログラムをして同じように育つわけではなく、一人ひとり最適な療 育は
ことなります
異なります。

これをゆうゆうでは、「**じゅうにんといろりょういく**」(公式用語ではありません。)といいま
す。

ひとり ちがう さいしょ
一人ひとり違うからこそ、最 初にゆうゆうがすることは、“その子を知る” ところから
です。

- なに すき
・ 何 が好きでキレイなのか、
- ひと ひとつ さいてき りょういく もさく
・ どんな人なのかを知ってゆきながら最 適な療 育を模索してゆきます。

また、こそだて りょういく ちゅうしん ば ごかてい
また、子育て(療 育)の中心の場は、ご家庭です。

りょういくしゃ ごかてい りょういく できる しどう
ゆうゆうは療 育者としてご家庭で療 育が出来るようにサポート・指 導も行ってい
ます。

